

シルバーリハビリ体操 指導士養成事業に学ぶ、 住民主体型介護予防

8-12 1 茨城県におけるシルバーリハビリ体操指導士養成事業の概要

●今 絵理佳, 他

13-27 2 住民主体型介護予防事業—事業継続・展開5つのポイント

●大川沙緒里, 他 コラム 飯田 猛, 他

28-36 3 シルバーリハビリ体操指導士養成事業および体操普及活動の状況

●齋藤由香, 他 コラム 椎名 均, 他

37-41 4 総合事業との協働

●石塚孝之, 他 コラム 上条八洲江

42-48 5 シルバーリハビリ体操指導士養成事業の質・量の広がり

●大田仁史

全国各地で体操教室などの介護予防事業が広く行われ始めているが、長期に継続させ地域に根づき、発展させていくことは非常に難しい。地域住民のモチベーションの維持、新規参加者の呼び込み、評価と質の担保など、事業参加者を飽きさせず、自分事としての意識を高く持ってもらうためには、行政や専門職が協働したさまざまな工夫が不可欠である。

本特集では、茨城県のシルバーリハビリ体操指導士養成事業における継続発展へのポイントを事業参加者の生の声もまじえながら掘り下げて紹介したい。

企画担当 ● 大田仁史（茨城県立健康プラザ 管理者）